2026年度 第3四半期決算説明会

- YX2026技術・生産改革の進捗 -

2026年11月13日
横浜ゴム株式会社
代表取締役社長兼COO
清宮　眞二

皆様、こんにちは。横浜ゴムの清宮でございます。

本日はご多忙の中、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私からは、2026年度第3四半期決算の概要と、YX2026における技術・生産改革の進捗についてご説明いたします。

目次

0. エグゼクティブサマリー
1. 2026年度3Q（1-9月）実績
2. 2026年度 年間計画
3. YX2026技術・生産改革の進捗

こちらが、本日お話しする内容です。

0. エグゼクティブサマリー

2026年度 第3四半期累計（1-9月）実績	• **3Q累計（1-9月）期間の売上収益・全ての利益項目において過去最高を更新** - 3Q累計（1-9月）事業利益は前年比467億円増（46%増） - タイヤ（OHT除く）：REP販売量は、3Q累計で前年比104%。欧州・インドが牽引 - OHT：農機タイヤは、3Q累計でOE・REPともに前年超え。OE販売量は前年比110%、REPは前年比104% • **北米は3Q（7-9月）に大きく回復。7-9月のREP販売量は前年比108%と市場（前年並み）を上回る伸び**
2026年度 年間見通し	• 2026年度通期業績・配当予想は8月公表計画を維持。**事業利益は3Q累計で年間計画の77%に達し、通期計画達成に向け順調に進捗**
YX2026 技術・生産改革の進捗	• YX2026の4つのテーマを着実に進め、技術力とスピード、品質・コスト競争力を向上 • 次期中計では、**LCCで培った生産基盤を全社に広げ、販売拡大と利益成長を支えていく**

YOKOHAMA
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

まず、全体のサマリーです。

2026年度第3四半期累計決算は、売上収益、すべての利益項目で過去最高を更新しました。特に、事業利益は前年同期比467億円、46%の増益となり、力強い成長を実現しています。

OHTを除く既存タイヤ事業では、市販用の販売数量が前年同期比104%となり、欧州やインドが成長を牽引しました。OHT事業でも、農機タイヤの新車用販売数量が前年同期比110%、市販用が104%と、好調に推移しています。

また、第2四半期まで課題となっていた既存タイヤ事業の北米販売も、大きく回復しました。7月から9月の市販用販売数量は前年同期比108%となり、前年並みの市場を大きく上回る伸びとなっています。

年間見通しは、業績・配当ともに前回公表予想を維持しています。一方、事業利益は第3四半期累計で年間計画の77%に達しており、例年を上回るペースで順調に進捗しています。第4四半期についても、原材料費をはじめとするコスト面の見通しがついてきました。足元の好調な事業の勢いを着実に利益につなげ、通期では計画を上回る着地を目指してまいります。

YX2026の技術・生産改革では、4つのテーマを着実に推進し、品質とコスト競争力を高めてきました。次期中期経営計画では、これらの成果をさらに発展させ、LCCで培った生産ノウハウを全社に展開することで、さらなる販売拡大と利益成長につなげてまいります。

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

それでは、さらに詳細についてご説明いたします。

1-1. 2026年度 3Q累計（1-9月）実績

2026年度3Q累計（1-9月）実績

単位（億円）	2026年度3Q累計		2025年度3Q累計	増減	増減率
売上収益	過去最高	9,669	8,772	+897	+10.2%
事業利益	過去最高	1,474	1,007	+467	+46.3%
(利益率)	過去最高	(15.2%)	(11.5%)	(+3.7%)	
営業利益	過去最高	1,549	917	+633	+69.0%
(利益率)	過去最高	(16.0%)	(10.4%)	(+5.6%)	
当期利益	過去最高	960	661	+299	+45.2%

YOKOHAMA
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

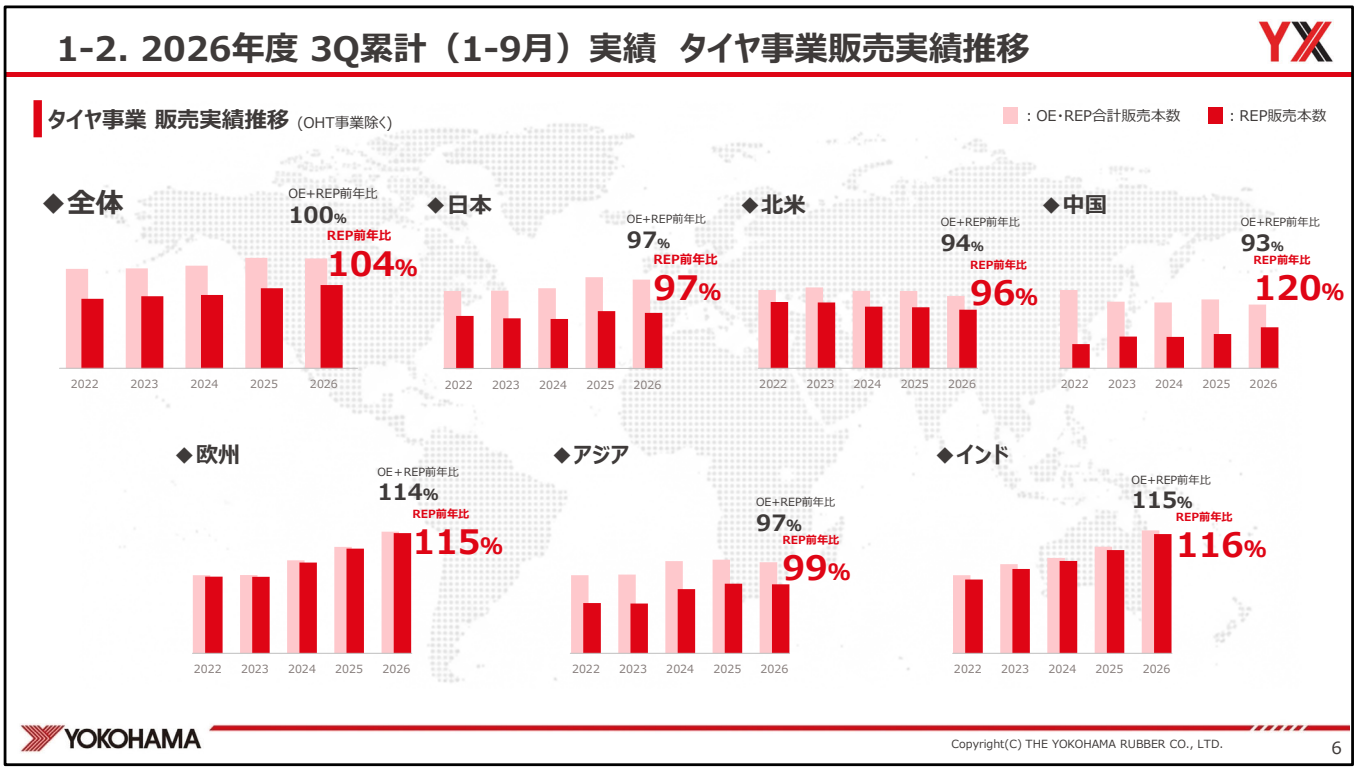
こちらは、第3四半期累計の決算数値です。

売上収益は9,669億円、前年同期比897億円増、10.2%の増収となりました。

事業利益は1,474億円、前年同期比467億円増、46.3%の大幅な増益を達成しました。事業利益率も15.2%に達しています。

営業利益は1,549億円となり、売上収益、すべての利益項目、そして利益率で過去最高を更新しました。

中東情勢の影響など厳しい経営環境の中でも、技術・生産改革を通じて高めてきた競争力を発揮し、売上・利益ともに力強い業績を実現しました。

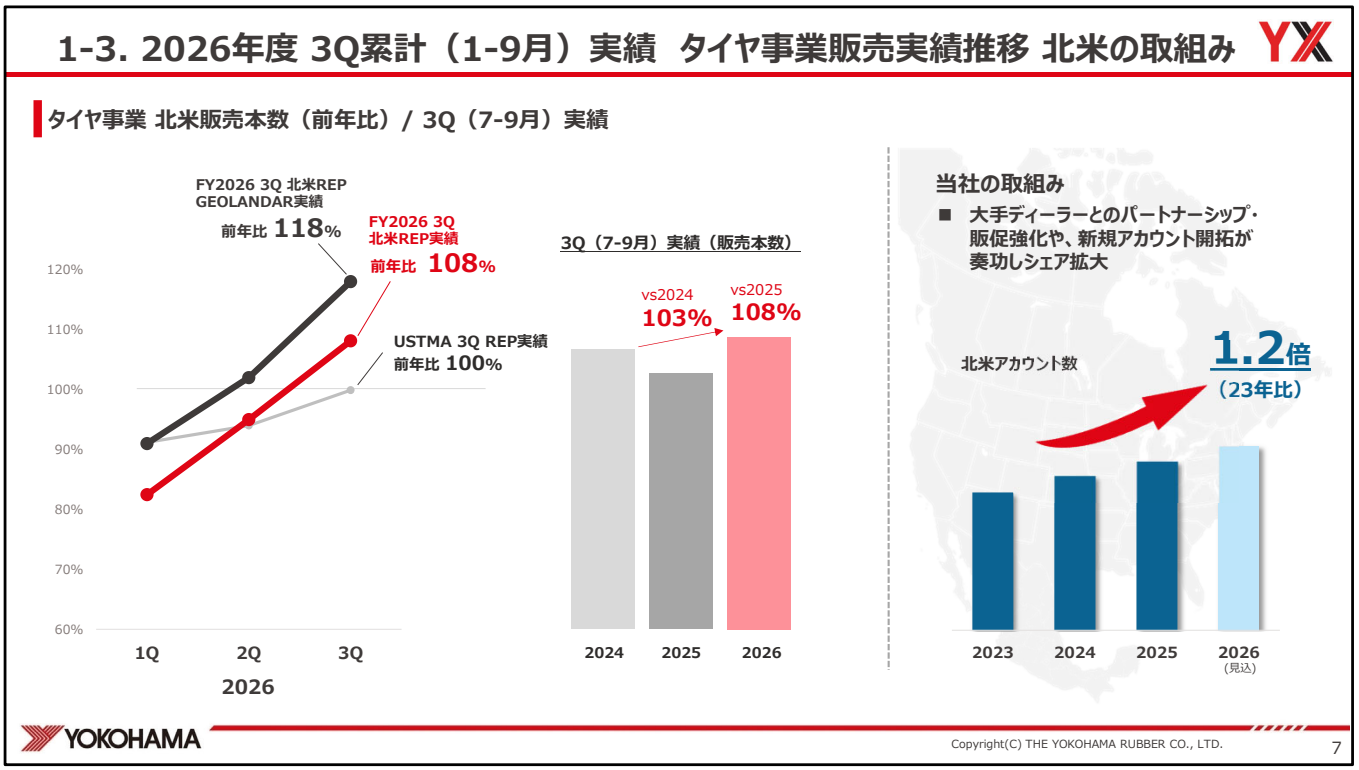


OHTを除く既存タイヤ事業の販売実績推移です。

グローバル全体の販売本数は、新車用・市販用合計で前年並みとなりましたが、市販用は前年同期比104%と、着実に販売を伸ばしました。

地域別では、欧州とインドが力強く牽引しています。欧州は新車用・市販用合計で114%、市販用では115%、インドも合計で115%、市販用で116%と、いずれも高い成長を実現しました。また、中国でも市販用は120%と、大きく伸長しています。

北米については、足元の回復状況を次のスライドで詳しくご説明します。



北米の状況です。

当社の市販用販売は、第1四半期から四半期を追うごとに回復し、7月から9月は前年同期比108%となりました。USTMAの市場実績が100%と前年並みにとどまる中、市場を大きく上回る伸びを実現しています。また、2024年の同期間と比較しても103%となり、2年前の水準を上回りました。

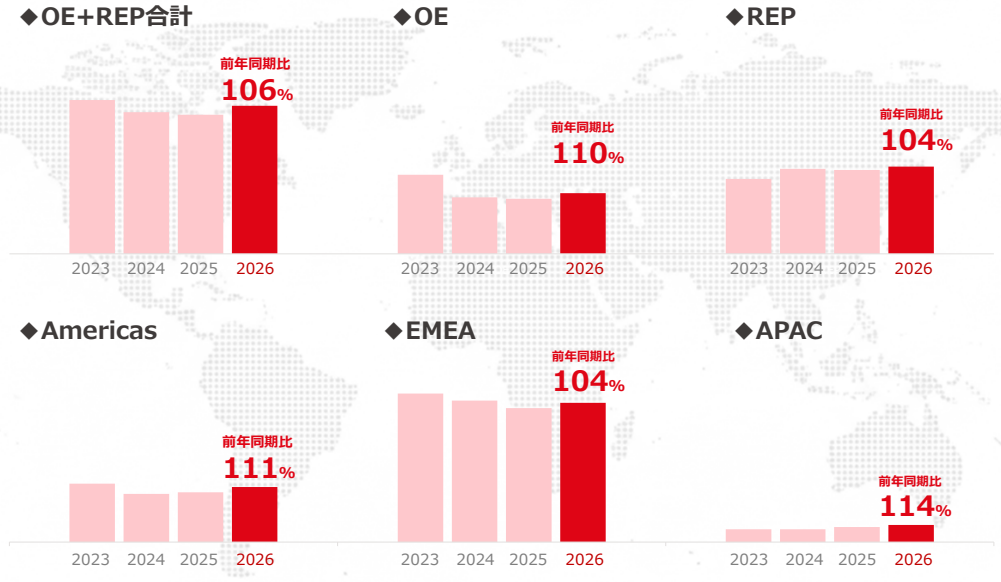
特に、当社が注力するSUV用タイヤ「GEOLANDAR」は118%と大きく伸長し、北米販売の回復を力強く牽引しました。

この回復を支えているのが、大手ディーラーとのパートナーシップ強化と、新規アカウントの開拓です。北米の取引アカウント数は2023年比で1.2倍に拡大しており、販売網の拡充と販売強化が、着実にシェア拡大につながっています。

こうした販売基盤をさらに強化し、GEOLANDARを中心に、第4四半期以降も北米での販売拡大に弾みをつけてまいります。

1-4. 2026年度 3Q累計（1-9月）実績　OHT農機タイヤ販売実績推移

農機用タイヤ販売実績推移 （重量ベース）



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

続いて、OHT農機タイヤの販売実績推移です。

農機用タイヤ全体の重量ベース販売量は、新車用が前年同期比110%、市販用が104%、合計で106%の伸長となりました。

地域別でも、全地域において前年実績を上回る堅調な結果となりました。

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

9

2026年度 年間計画です。

2. 2026年度 年間計画

年間計画

単位（億円）	2026年度 計画	2025年度 実績	増減率
売上収益	過去最高 13,200	12,350	+6.9%
事業利益	過去最高 1,925	1,666	+15.6%
(利益率)	過去最高 (14.6%)	(13.5%)	(+1.1%)
営業利益	過去最高 1,995	1,529	+30.5%
(利益率)	過去最高 (15.1%)	(12.4%)	(+2.7%)
当期利益	過去最高 1,170	1,054	+11.0%
1株当たり配当	過去最高 223円	134円	+89円

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

売上収益、各利益、配当予想ともに、前回公表計画を維持しています。

一方、事業利益は第3四半期累計で年間計画の77%に達しており、着実に利益を積み上げています。
第4四半期も、原材料費をはじめとするコスト面の見通しがついてきました。

欧州・インドの好調や北米の回復を着実に利益につなげ、通期では計画を上回る着地を目指してまいります。

目次

0. エグゼクティブサマリー

1. 2026年度3Q（1-9月）実績

2. 2026年度 年間計画

3. YX2026技術・生産改革の進捗

11

次に、YX2026で進めてきた技術・生産改革の進捗と、次期中期経営計画に向けた考え方にも少し触れたいと思います。



当社は、YX2026の技術・生産改革において、「よいものを、安く、スピーディーに」を基本に、4つのテーマに取り組んでまいりました。

AIなどを活用した「タイヤ開発のスピードアップ」、高い性能を追求する「次世代プレミアムカー向け新車装着タイヤの開発強化」、早期立ち上げ・早期投資回収を目指す「1年工場」への挑戦、そしてATGのノウハウなどを活用した「抜本的製造コストダウン」です。

それぞれの進捗をご説明します。

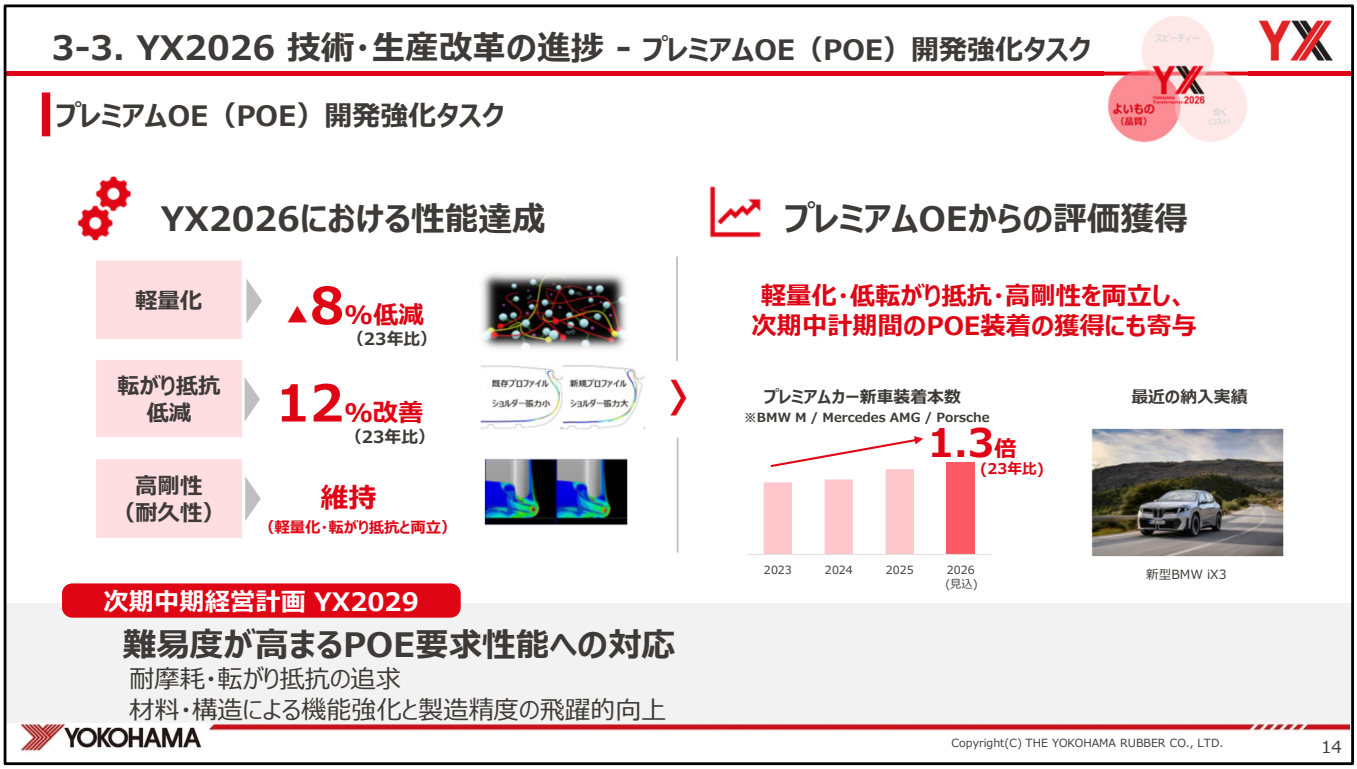


タイヤ開発のスピードアップの成果です。

当社独自のAI「HAICoLab」の利活用を、ゴムの配合からタイヤの構造、開発プロセス全体へと広げ、1商品あたりの開発期間をYX2023対比で1.5年短縮しました。新商品・サイズの開発数も、2023年比で1.2倍に拡大しています。

さらに、中国現地の開発体制を強化し、スピードが求められる現地メーカーへの対応力を高めました。その結果、中国での新車装着タイヤの販売本数は、2023年比で170万本以上増加しました。

次期中計YX2029では、AIの自律エージェント化や予測精度の向上を進め、開発のスピードと質をさらに高めてまいります。



次に、次世代プレミアムカー向け新車装着タイヤの開発強化です。

欧州プレミアムカーの高い性能要求に応えるため、当社は「プレミアムOEタスク」を通じて、開発力を磨いてきました。

YX2026では、両立が難しい「軽量化」「転がり抵抗の低減」「高剛性」の追求に取り組み、ご覧の成果を上げています。こうした技術力が評価され、次期中計で採用される新たなPOE車種の獲得にも寄与しています。

YX2029では、AIの利活用と新たな専用生産ラインの導入により、さらに高度な性能要求に応えてまいります。

3-4. YX2026 技術・生産改革の進捗 - LCC（中国・メキシコ新工場）

中国杭州新工場　1年工場（11か月で立ち上げ）





生産能力　900万本
フル生産　2028年予定
（2027年 700万本生産予定）

量産開始 2026年3月 当初6月から前倒し



中国市場 独自商品
YUYU TIGER 优游虎

メキシコ新工場





生産能力　500万本
フル生産　2030年予定
（2027年150万本生産予定）

量産開始 2027年1Q 計画通り進捗

New **11月下旬開所予定**



主力商品
【SUV・ピックアップトラック用】
GEOLANDAR

Low-Cost Conversion

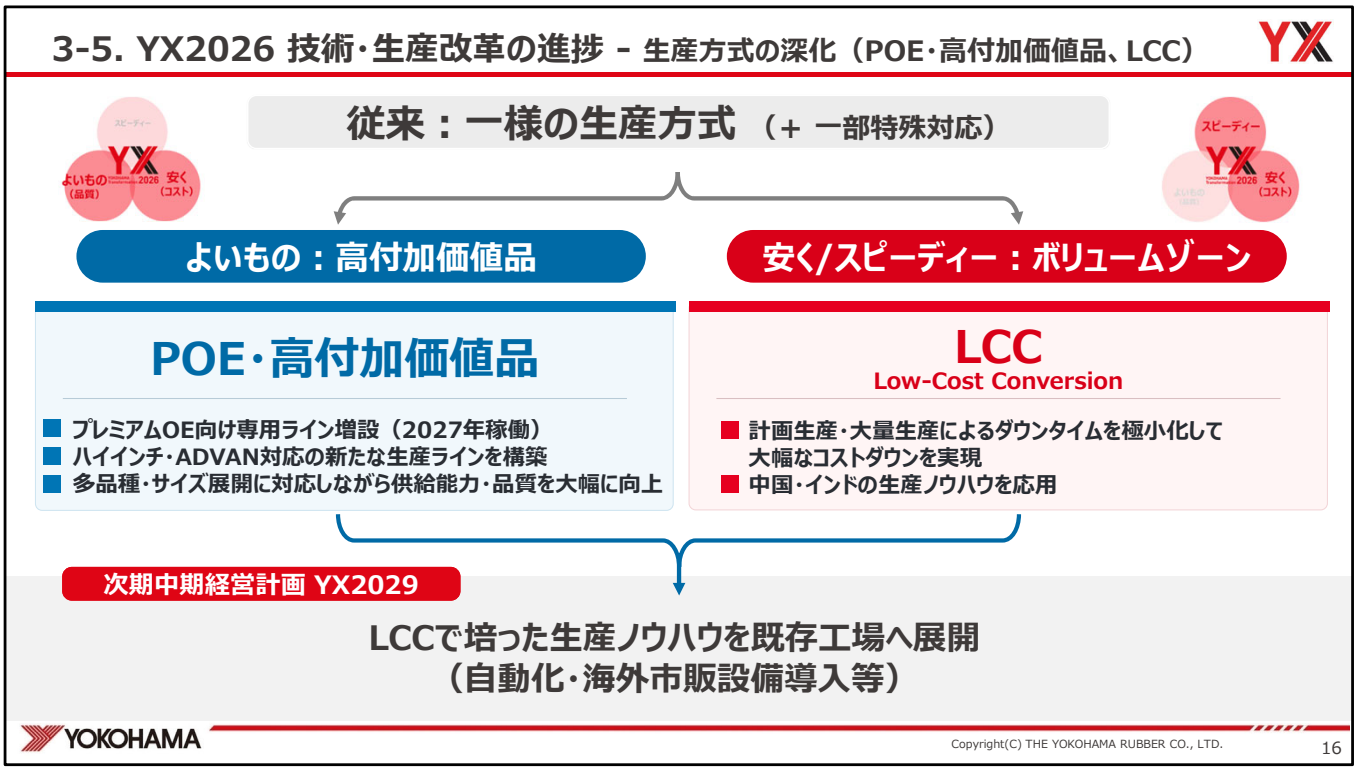
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

次に、中国・杭州とメキシコの新工場です。低コスト生産を担う2つのLCC拠点は、いずれも順調に進捗しています。

杭州新工場は、着工から11か月で立ち上げ、当初計画を3か月前倒しして、今年3月に量産を開始しました。2027年には700万本の生産を予定しています。

メキシコ新工場は、今月立ち上がる予定です。2027年第1四半期の量産開始に向けて計画どおり進んでおり、2027年には150万本の生産を予定しています。

インドに加え、この2拠点を着実に戦力化し、販売拡大とコスト競争力の強化につなげてまいります。



ここで、これまでご説明した高付加価値品とLCCの取り組みを、生産方式の観点から整理します。

従来の一様な生産方式から、製品の特性に応じて、品質・コスト・スピードを追求する生産方式へと進化させています。

高付加価値品では、製造精度を追求し、設計自由度を拡大したプレミアムOE向け専用ラインや、ハイインチ・ADVAN向けの新たな生産ラインを整備し、多品種・多サイズに対応しながら、品質と供給能力を高めています。

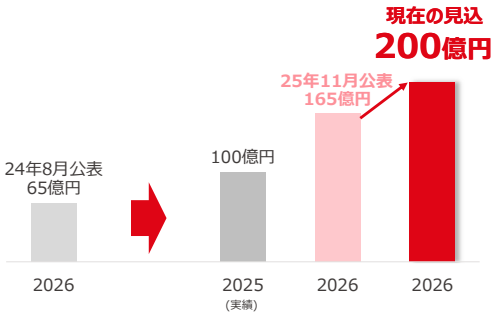
一方、ボリュームゾーンでは、中国・インドの生産ノウハウを生かし、計画生産・大量生産によって設備の停止時間を最小限に抑え、大幅なコストダウンを進めています。

次期中計YX2029では、自動化や海外の市販設備の導入など、LCCで培った生産ノウハウを既存工場へ展開し、全社のコスト競争力をさらに高めてまいります。

3-6. YX2026 技術・生産改革の進捗 - 抜本的コストダウン

抜本的コストダウンの進捗

コストダウンの見込額（原材料費・加工費合計）



原材料費

新規サプライヤー採用数	原価低減アイテム数
従来比 140%	従来比 130%

中東情勢時の原材料確保にも寄与
（BCPとコスト削減の両立）

加工費

	YX2026	現在の見込
ハイインチ生産設備 能力・稼働率向上	+3%増量	+5%増量（23年比）
エネルギーコスト削減（燃料転換）（フィリピン・タイ工場）	15%低減 ($/t)	28%低減（23年比）

次期中期経営計画 YX2029

原材料：サプライヤーの更なる開拓・対象品目拡大と採用前倒し
加工費：ハイインチ品の能力増強・エネルギーコスト削減強化

YOKOHAMA
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

抜本的コストダウンの進捗です。

原材料費と加工費を合わせた2026年のコストダウン効果は、当初の想定を大きく上回る200億円を見込んでいます。技術・生産改革の大きな成果として、収益力の向上に貢献しています。

原材料では、新規サプライヤーの開拓と採用拡大を進めました。コスト低減に加え、中東情勢の影響下でも原材料の安定確保につながるなど、調達面の強化にも効果を発揮しています。

加工費でも、ハイインチ品の生産設備の能力・稼働率を高め、増産効果は当初目標の3%から5%へと拡大しています。また、燃料転換によるエネルギーコストの削減率も、目標の15%を上回る28%を見込んでいます。

3-7. YX2026 技術・生産改革の進捗 まとめ

開発スピードアップ AI（HAICoLab）活用

1商品あたりの期間短縮（YX2023対比）
-1.5年

プレミアムOE（POE）開発強化タスク

軽量化	転がり抵抗低減	高剛性（耐久性）
▲8%低減（23年比）	12%改善（23年比）	維持

LCC 中国・メキシコ新工場

中国杭州新工場
量産開始 26年3月 *当初6月から前倒し
メキシコ新工場
量産開始 27年1Q *計画通り進捗

抜本的コストダウン

新規サプライヤー採用数	原価低減アイテム数
従来比 140%	従来比 130%
ハイインチ生産設備能力稼働率向上	エネルギーコスト削減（燃料転換）
+5%増量（23年比）	28%低減（23年比）

新商品開発数（23年比）
1.2倍

中国OEメーカーへの新車装着本数（23年比）
＋170万本以上増

プレミアムカー新車装着本数（23年比）
1.3倍

コストダウンの見込額
200億円

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

最後に、YX2026における技術・生産改革の成果をまとめております。

開発期間の短縮やプレミアムカー向けの技術開発、LCCでの新工場建設、抜本的なコストダウンなど、それぞれの取り組みが、新商品・新車装着の拡大や収益力の向上につながっています。

来年2月に発表予定の次期中期経営計画「YX2029」では、技術・生産改革をさらに進め、LCCで培ったノウハウを全社に展開してまいります。

販売拡大と利益成長を支える技術・生産基盤を、一段と強くしてまいりますので、ぜひご期待ください。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。


YOKOHAMA
YX
YOKOHAMA
Transformation
2026

ご参考：日本証券アナリスト協会ディスクロージャー優良企業選定第1位（自動車・同部品・タイヤセクター）

公益社団法人日本証券アナリスト協会による
2026年度（第32回）
「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」
自動車・同部品・タイヤ部門で1位の優良企業に初選定

情報開示の充実度や経営陣がIRに積極的に関与している姿勢などを高くご評価いただきました。

今後も積極的な情報開示と丁寧な説明を行い、皆様の貴重なご意見・ご指摘を真摯に受け止め、さらなる企業価値向上に努めてまいります。

【証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定結果】
https://www.saa.or.jp/standards/disclosure/selectiont/index.html



YOKOHAMA
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

ご参考：統合報告書2026発行



サステナビリティサイト「統合報告書2026」
https://www.y-yokohama.com/sustainability/information/backnumber_report/

「利益率向上」「期待成長性向上」「資本コスト低減」という3つの企業価値向上ドライバーからなる「企業価値算定式」をベースに誌面構成を刷新。
「企業価値」「利益率向上」「期待成長性向上」「資本コスト低減」の4章でお伝えしています。

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.